

十和田湖のヒメマス

- 十和田湖のヒメマス漁業は主に刺網で行われます。漁期は4～12月ですが、5～6月と10月ごろの二つのピークがあります。

漁獲量を長期的にみると、昭和40年代の20トン程度からしだいに漁獲が伸び、昭和59年までは60トン程度と増加しました。その後は、平均20トン程度で年による変動も大きくなっています。平成17～31年は6～18トンの漁獲で、令和2年の漁獲量は8トンでした。



十和田湖のヒメマス
親魚の漁獲

また、昭和59年に初めてワカサギの漁獲量4トンが記録されています。ヒメマスが少なくなった原因は、ワカサギとエサが競合するためだと考えられています。ワカサギの漁獲は、その後、大きく変動し、平成3年には142トンを記録しています。最近では、平成17～18年には1トンに満たなかったものの、平成19～22年は、8～21トンの漁獲量であり、平成23～24年は40～52トン、平成25～31年は1～63トン、令和2年は20トンでした。

- ヒメマス稚魚は、昭和28年～平成21年にかけて4万尾～430万尾の放流が行われてきました。平成22年以降は、毎年70万尾が放流されています。



十和田湖増殖漁協で育てられ
たヒメマスの稚魚



ヒメマス稚魚の放流式
(十和田湖畔和井内)

- 十和田湖のヒメマスにとって一番重要なエサは動物プランクトンですが、このプランクトンの種類ごとの量は毎年のように大きく変わります。ヒメマスの稚魚が好むプランクトンはハリナガミジンコやヤマヒゲナガケンミジンコですが、近年はその量が非常に減っており、最近のヒメマス稚魚は、陸生昆虫やワカサギ、ゾウミジンコなども食べています。